

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102491		
法人名	社会福祉法人 みどり福祉会		
事業所名	グループホーム北山		
所在地	岐阜市北山1-15-25		
自己評価作成日	平成28年7月25日	評価結果市町村受理日	平成28年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&ligyosvoCd=2170102491-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年8月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設に地域の方を招く事に、力を入れている。ホームの夏祭り、新年会にご家族、地域の民生委員さん、自治会役員の方に、声掛けさせて頂いて頂いている。音楽ボランティアでフルート演奏が行われるが、演奏を地域の方にも聞いて頂く為声掛けしている。出来る限り外に出掛けて頂ける様に、近隣の散歩や、地域主催のほっとサロン、地域の夏祭り、喫茶店等少人数ですが、出掛けている。身体、精神的に低下して行く中、出来る事が継続して出来る様に、家事仕事を中心に行って頂き生活している。個人個人の思いを尊重しながら、集団生活を生かして、ゲームや百人一首を楽しんで頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの近隣は商業地域で、川沿いには遊歩道がある。開設14年目を迎えたホームは、ケアハウスの1階にある。当初から地域との連携も深く、避難訓練や行事などに住民の参加も多い。地域の人による手作りの「紙芝居」をケアに活用したり、ボランティアの「ハーモニカ演奏会」などを行ない、地域の人との関係作りも積極的である。請求書を送る際には、前月1週間分の介護記録を同封し、家族にも見える形で変わらない支援を継続している。居室は和室もあり、利用者本位の体制が整えられている。また、新しく「オレンジカフェささゆり」を定期的に開催するなど、地域との交流をさらに深める取り組みを行なっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事に参加させて頂いたり、地域の方に来て頂けるように継続している。運営推進会議で、助言を頂き、さらなる進展に繋がるように努めている。	理念は、常に職員の目の届く玄関に掲示されている。日常のケアの中で、利用者と職員の思いが通じ合わないときは、常に理念に立ち戻り、本音で向き合える関係づくりに努めている。また、利用者が居心地良く暮らせるような支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のほっとサロン、食事会、運動会、夏祭り、避難訓練に参加させて頂いている。月2回ボランティアの音楽会を開催している。	開設当初から行われてきた地域との交流を継続し、利用者の参加も積極的に行っている。地域住民の手作り紙芝居の提供や、ボランティアによるハーモニカの定期演奏などがあり、地域の方の持つ力を活用しながら、交流の機会を多くもっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方にもホームの音楽会に、来て頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護保険課の方に、他施設の情報を教えて頂いたり、民生委員さんから、地域の情報を頂いたりして行事参加の進展に繋げている。	運営推進会議は隔月に開催し、自治会役員の参加もある。地域の行事に参加する際には、役員が、ホームと地域の橋渡し役として、大きな力となっている。高齢化率の高い地域でもあり、運営推進会議は、有効な情報交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事等、電話で相談させて頂いたり、運営推進時、情報を頂いたりして、連携に努めている。	行政との関係は良好で、日常的に電話で相談し、最新情報や制度改正についての助言や指導を得るなど、意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的には行わない。どうしても必要時は、職員で話し合い、必要のある場合は、家族了解を得て、アセスメントしながら、無くす方向に繋げている。	母体法人の研修が定期的に行われ、身体拘束に関して学び、弊害についても理解している。利用者と言葉のやり取りが難しい時や、意思疎通が上手くいかない場合は、職員が交代して対応し、利用者の思いに寄り添うよう努めている。	半年ほど前、利用者が一人でホーム外へ出たことがあり、対応策として「センサー」を設置した。開設当初から「施錠は行わない」方針であるが、利用者の安全に向けて、さらなる対応の工夫を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	岐阜民医連の学習会で、年1回開催されている学習会に職員が参加。人権尊重の為、やってはいけない事を、職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	岐阜民医連の学習会で、年1回学び、必要な方があれば支援方法を相談し、情報を頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず説明と同意を頂いてから、対応をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の方に、投書箱の確認をお願いしている。家族アンケートを行い、貴重な意見を頂き、改善点是对応出来る様に努めている。	日常の支援の中で、利用者の言葉に耳を傾け、家族の面会時には、意見や要望を聞き取っている。また、アンケートは口頭で行い、投書箱も設置している。投書箱は、第三者委員会による確認が行われ、報告書の記録がある。	口頭でのアンケートは実施されているが、さらに職員全員でアンケートの中身の検討を行い、家族の意見が、支援に反映されるよう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で職員の意見を聞いて、話し合いをしている。出された意見を管理者に報告したり、労働組合で交渉して対応している。	職員の希望を第一に考え、業務がスムーズに行えるよう工夫し、勤務表を作成している。また、管理者は、勤務体制についても、職員が無理なく働けるよう法人にかけ合っている。緊急時には職員全員が協力できる体制がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員会議や個別面接、労働組合との交渉を通じて、少しでも向上心を持って、働ける職場作りを目指している。働き甲斐レポートを作成し職員で取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回開催される岐阜民医連の学習会への参加を通じ、力量アップや介護職員同士の交流を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜民医連内の介護交流会集会や外部研修や、GH協議会の会議等に参加させて頂き、他事業所の交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が無理な場合は、ご家族から生活歴を中心に情報を頂き、少しでも穏やかに生活出来る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ここまで見て来られてご家族の思いをきちんと労い、その中で対応に苦慮した事を、話して下さるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	外部のサービスが必要な場合は、ご家族に情報をお伝えして、今後サービス活用に繋げていくか相談しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る力をなるべく継続して頂けるように、支援し、職員間で話しあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なるべくご家族と一緒に時間を過ごして頂けるように、ホームに来て頂いたり、電話で状況をお伝えして、安心して頂けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にお願いして出掛けて頂いたり、他のサービスにお願いして対応出来る関係作りをしている。	併設のケアハウスからホームに移った利用者が、ケアハウスの知人と交流したり、美容院、喫茶店、運営推進会議のメンバーが経営する店へ外食に行くなどしている。また、職員と一緒に法人の病院へリハビリに行き、家族の協力を得て、墓参りにも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月職員会を行い、利用者の状況について個々の関係で孤立しないように、職員の対応を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去され契約が終了した後でも、ホームで協力できる事があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での会話や出来る事が、少しでも継続出来る様に、プラン内容に反映し、話し合っている。	本を読むことが好きな利用者が、地域住民手作りの紙芝居を、他の利用者の前で読み、皆で楽しい時間を過ごしている。また、これまでしてきた洗濯物たたみ、個々のできること、得意なことなどを、その人の生活歴や会話の中から把握し、支援に結び付けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に、ご本人様の生活歴を把握して、生活環境を継続出来る様に、話し合いを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家事仕事、散歩等の運動、字を記入する事等、出来る事を、出来るだけやって頂けるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントや職員の意見、ご家族の思い、ケア内容を評価して、その中でプランを作成している。	利用者と家族の思いや意向、医師からの情報や助言を取り入れた介護計画を職員全員で作成している。ケアは担当制になっており、職員は、利用者の少しの変化も見逃さず、その様子や記録からモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録を記入して、ケア内容の評価判断に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム内で対応出来るご本人、ご家族のニーズは、職員間で検討し対応に努めたり、他のサービスで対応出来る情報があれば、相談しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーへの買い物に、職員と一緒に出掛けたり、また地域の食事会等、楽しみにされているので、多くの方に参加して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が何処で受診をして頂くか判断している。対応出来ない場合は、往診で対応している。	利用者、家族の意向により、全員が母体法人の協力医で受診している。月2回の往診と訪問看護で、安心した医療体制で支援している。他科受診は家族同行を基本としているが、緊急時は職員が柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に、訪問看護に来て頂いて、状況を把握して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関と連携をきちんと摂って対応している。相談もきちんと対応して頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族は、終末期に関して事前にホームが、何処まで対応できるかを、お話しし、その中で医療機関なのか、他施設なのか、ホームで対応するのかを、ご家族、医療機関との話し合いを持って対応している。	入居時に看取りについて詳細に説明し、同意を得ている。看取りの経験はあるが、あくまでも利用者の思い、家族の思いを段階的に確認しながら、医療との連携を強化し、家族の協力を得て、支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員の指導で年1回、救急救命蘇生の方法を学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ケアハウスとの合同で消防訓練は年2回開催している。1回は地震と火災発生訓練、1回は夜間火災発生想定で地域自治会の協力を得て実施した。また地域自治会主催の防災訓練に利用者職員が参加した。	年2回の消防訓練には地域住民の参加もあり、地域での訓練には、職員と利用者が共に参加し、双方の協力体制を整えている。災害時の備蓄は3日分を完備し、併設のケアハウスは、災害時にホール等が使用可能となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で尊重して対応出来る様に、努めている。職員が対応に詰まる時は、職員間で交代しながら、また穏やかに対応出来る様に、努めている。	支援の中で、職員と利用者の思いがかみ合わない場面が生じたときは、職員が交代し、違った視点で丁寧に利用者寄り添い、言葉かけを行っている。また、常に、利用者を敬う姿勢で対応ができているか、職員間で振り返っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらから声掛けして、出来る事はやって頂いている。強制しないようにしている。自発的に出来る方は、自由にやって頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の対応が増えてきている支援の中で、職員の動きが優先してしまう部分もある。職員会議で話し合い、時間が少しでも取れるように、週2回は、入浴日をなくし、ゆっくり話を聞いたり、散歩に出掛けたり、気分転換して頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や、整髪等、身だしなみに気を付けている方は、自由にして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好品や、嫌いな物を把握して、苦手な物の時は、パンを食べて頂いたり、うどん等の麺類を食べて頂いている。	朝食と夕食は、利用者のリクエストや、冷蔵庫にある食材で、職員が工夫を凝らし作っている。昼食は、ケアハウスから届いたものを取り分け、利用者もできることを手伝いながら、ゆっくりと食事時間を楽しんでいる。また、誕生会の外食ランチも楽しみのひとつになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や栄養面が少ない方は、ココア、ロールケーキ、プリン、羊羹等個々に、摂りやすい物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、出来ていない。就寝前には、介助したり、声かけ、見守りしながら口腔ケアを行っている。		

岐阜県 グループホーム北山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄出来方は、チェック表に記入して定期的に誘導している。また夜間帯は、ポータブルトイレを利用して頂いている。	排泄記録をもとに、利用者の排泄パターンに沿い、昼夜共に、無理のない排泄方法で支援を行っている。排泄を特別なものというのではなく、食事前や入浴前など、利用者が行動する節目に、さりげなく声かけを行い、トイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	炊飯時に寒天うい入れて、繊維質を多くしたり、成分摂取の声掛け、歩く事等の運動して頂き、対応している。無理な方は薬で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後に入浴を行い、毎回入る方、一日おき、二日おきの方と個々の思い、状態に合わせて、対応している。	週5回の入浴が可能となっており、利用者の希望に合わせて、曜日や時間に配慮し、女性職員で対応している。また、会話を楽しみながら、気持ちよく入浴できるよう支援に努めている。外出や行事などがある時は、ゆっくりできるよう対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆さまのペースで休んで頂いている。昼寝をされたり、夜間眠れない方は、職員室まで来られ、飲み物を飲んで頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りノートに、変化があった時は、記入している。その他毎回処方箋を頂くので、ファイルの閉じて、直ちにわかる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活状況によって、出来る事をやって頂いている。こちらの支援が必要な方は、一緒に家事仕事や散歩、外出して気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に出掛けたり、ご家族と一緒に出掛けて頂いている。	川沿いの遊歩道で、日常的に散歩している。年間行事では、初詣や桜・バラ・菊花展などの季節の花見に車で出かけている。また、地域の行事への参加、外食や週2回の買い出し等、家族の協力を得ながら外出の機会を多くもっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額でもお金を管理出来る方は、ご家族と相談して持っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の電話をしたい方は、ホームから掛けて頂いている。年賀状等節目に出される方の、支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自然な物を取り入れて、花等飾って季節感を出せるように努めている。周囲は出来るだけ、みどりを多く取り入れている。	リビングの中心にテーブルが置かれ、食事だけでなく、トランプやレクリエーションを楽しむ時にも活用し、家庭的な雰囲気のある空間である。利用者は、コーナーのソファで寛いだり、畳のスペースで洗濯物を畳んだりしている。裏庭に洗濯物が干してあり、生活感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にベンチを置く事で、外の空気を吸って頂いたり、ソファで一人座って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、自由に部屋へ持って来て頂いている。	一人ひとり馴染みの家具を持ち込み、好みに配置をしている。仏壇や冷蔵庫を持ち込む利用者もある。居室は、洋室の他に、畳の部屋も2部屋あり、掃除が行き届いた居心地のいい部屋になっている。居室のドアには、花や景色の写真などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況に合わせて、簡易手すりを使用したり、怪我のない様に、家具材を保護したり、個々の自立した生活に努めている。		